

〈ヒメリンゴ〉

ヒメリンゴが赤い実をつけ始めた。5、6年ほど前長野（須坂）の知り合い農家さんから頂いた苗で、今年は17個の実をつけた。春先たくさんの花が咲いたのでそれなりに期待していたのだ。植えっぱなしで世話らしい世話は何もしていない。もちろん消毒などもしないのでカミキリムシの穴だらけ！そんないい加減なほったらかし状態で果たして実をつけるのか???

しかししかし、2年ほど前から少しずつ実をつけ始めたのだ。だが肌は汚れ虫食いだらけの実、とても“食べたい”と思えるような代物ではない。試しに完熟して落ちた実を（ほとんど食べるころはないのだが）食べてみると・・・、これが意外とうまい。ちゃんとリンゴの味がする。“観賞用になればいい”くらいの気持ちでいたが、食べられるならこんないいことはない。ピンポン玉程度のカワイイサイズで、カラスも振り向かないようなリンゴだが、こんな悪条件の中よくぞ生ってくれたと拍手せずにはいられない。新潟から来たウドと同じく、この畑に根を張って、時々目の保養と話し相手になってくれたら嬉しい。



小さくてもリンゴはリンゴ。木村秋則さんのような“奇跡のリンゴ”にはならないが、こんな土地で花を咲かせ実をつけたのはある意味“奇跡”なのかもしれない。まさに“すべては宇宙の采配”なのだ。



